

第4回岡崎市総合政策指針審議会 会議録

日 時

令和2年2月21日（金） 10:00～11:20

場 所

岡崎市役所東庁舎 4階第二来賓室

出席委員及び欠席者

（出席委員）

あいち三河農業協同組合 代表理事組合長

天野 吉伸 委員

岡崎信用金庫 理事

氏原 久元 委員

東京大学 教授

小川 光 委員

名古屋都市センター センター長

奥野 信宏 委員

岡崎市総代会連絡協議 会長

神尾 明幸 委員

連合愛知三河中地域協議会 副代表

小林 正幸 委員

名古屋大学 教授

福和 信夫 委員

（欠席委員）

愛知大学 教授

入江 容子 委員

岡崎商工会議所 会頭

大林 市郎 委員

岡崎市医師会 会長

小原 淳 委員

岡崎市教育委員

福應 謙一 委員

愛知産業大学 学長

堀越 哲美 委員

（事務局）

総合政策部 部長

永田 優

総合政策部企画課 課長

岡田 晃典

総合政策部企画課 副課長

山本 英樹

総合政策部企画課 係長

鈴木 昌幸

総合政策部企画課 主事

藤井 聖士

（傍聴者）

2名

《会長選出》

小川委員から奥野委員の推薦あり

出席委員による承認

《副会長選出》

奥野委員が堀越委員の推薦あり

出席委員による承認

《次第》

1 議題

「次期総合計画について」

事務局より、「次期総合計画」について説明。

【各委員の主な意見】

- 未来投資計画の形を取ることは全体に横串を刺せる点で良いことである。一方で、パッケージが多すぎてメリハリがない印象を受ける。3つの目標に戦略性がなく、施策間の関係性が見えてこない。逆に、人口規模についてはフロー図で詳細に記載されているが、全体としての大きな方針が感じられない。三河地域の発展については、すっきりしているが中身がやや薄い印象を受ける。3つの大きな施策が、同じレベルの書きぶりにならないといけないだろう。
- 観光産業都市というのは、岡崎全体として観光でどう魅力を作るかが先にあったうえで、リバーフロントと山間部・その他と分けるべきかという話が出てくるはずである。先に細かい施策が書かれることに違和感がある。
- 工業立地促進というのは、本当に交通の話だけでよいのか。どの産業がどこにあるべきで、周辺市町にある産業拠点との間の連関がどうなっているかなども重要である。また、海拔ゼロメートル地帯に関しては、南海トラフ地震臨時情報が出たときの事前避難対象地区にする方向であるため、当然浸水被害度の高い場所から移転していくことになる。そういった場所ごとの視点が少ないと感じる。
- 新産業はリバーフロントに集中させるのもよいが、本当にそれが得なのかどうかの議論がないように感じる。東岡崎駅やJR岡崎駅も含め、検討を進めていくのがよいだろう。
- 市域周辺部から高齢者の撤退を促すように見えるが、本当にそれがよいのか、どこまで議論がしてあるのだろうか。市の周辺部は土地を持っている人が多く、比較的自然環境も維持されている。若い人が移り住んだとして、その田畑を誰が維持するのかという点が気になる。むしろ、そういった所で自律的に住み続けられるような方策を作るということを、

自動運転との関連も含めて提案しないといけないだろう。コンパクトに集まることと同時に、自然豊かな場所で自律的に生活していけるような援助を作って、それが新しいビジネスモデルになればよい。

- 空き家の問題が出てきていない。今後増加する空き家等をよりよく活用していく戦略が全体に見えないと感じる。
- 広域連携については、核となるセンターがない限り戦略は作れないだろう。せっかく東岡崎駅の前が整備されていくのだから、例えば、9市1町から人が出向して戦略を作るようなセンターを作り、その資金は市が拠出する代わりに人を派遣してもらうなど、そのレベルまで言及すれば実現性が感じられる。
- パッケージを推進する主体と責任・権限がどこにあるのかが気になる。各課で分担して推進するのだろうが、横串を刺す責任部局がないと進まないだろう。
- 市域の中心部があいまいである。JR岡崎駅、東岡崎、康生のそれぞれにどのような機能を持たせるのかについての戦略がないため、未来を見通しづらい。
- 若い世帯が郊外に住む場合、高校生等はどうやって中心部の学校に通学するのか。若い世代の交通弱者の発生が予想されるので、それをカバーするような交通施策が重要であり、そこでパッケージが必要になるだろう。
- 広域観光推進パッケージについて、ターゲットがわかりにくい。もしも中国や東南アジア等の外国人をターゲットにしているのであれば、新幹線や愛知環状鉄道だけでなく、高速バスなどの戦略も必要だと思われる。特に愛知環状鉄道が誰をターゲットにしているのか分かりづらい。
- 中心地がどこにあるのかについて、立地適正化計画ではどうなっているか。四日市は近鉄四日市駅と富田駅をコンパクトな拠点としている。富田駅は名古屋通勤者の住宅地であることを鮮明にして整備を進めている。中心地は必ずしも一つである必要はないが、それぞれの場所の機能をはっきりした方がよい。その点を注意して議論を進めて欲しい。
- 私も70年岡崎市に住んでいるが、今後は交通、文化を大事にしていくことが重要であると感じる。広域で考えたときに、「岡崎市にはこんな文化財がある」ということがよく分かり、行ってみたい、住んでみたいと思われる都市づくりを模索して欲しい。そのためには、交通機関や移動手段のつながりも重要になるだろう。
- 工業立地については誘致活動に加え、各地域に根付いた関連産業も重要だ。民間企業との関係を十分に考慮しながら進めていくことが必要である。
- 若い人の流出を防ぐために何が必要か考えていきたい。将来戻ってきてもらえるような都市づくりが重要だろう。
- 住宅の問題については、高齢者が都市部に住むという話があったが、その逆もあるのではないか。周辺部の住宅が余るのであれば、より広い住宅で2世帯、3世帯が一緒に住めるということも大事な視点だろう。

- 農業・林業が触れられていない点が気になる。自分の食を確保していく意味では重要な産業である。額田を含め、今後の林業体制をどうしていこうかというのも重要な視点ではないか。
- 地域拠点を明確にし、集中的な開発を進めるべきではないか。人口 40 万人を目指すためには、個人だけではなく企業誘致も重要となる。そういった面で、全国に市のプランを知ってもらえるようにすると良い。
- 行政が民間の話に立ち入るのは大変難しいことである。しかし民間企業が排他的にならず、市の発展のために協力してもらえるような切り口を行政が考えて作っていく必要があるだろう。
- 高齢化の波の中で中心は移っていくと思う。特に少子化が進んでいく中では空家問題が出てくるのではないか。何かしらの対策をとっていく必要がある。
- 中心から離れている環境の良い場所で生活するために移ってくる人もいるが、高齢者にとって利便性の悪かった場所では、若い人にとっても同様だろう。そのため中山間地域の活性化をしていかないと中途半端になってしまう。
- 中山間地域の農業が厳しい状況になっている。耕作面積が小さく高低差もあるため、管理が大変になっている。個人の小さな農地や借地は経営的にやっていけない状況である。この先、農地が荒れてくると、それが災害にもつながっていくのではないか。できれば中山間地域の対策をしっかり組み込んで欲しい。
- 集約には4つあり1つ目はコンパクト化、2つ目は行政の機能の集約化、3つ目は働く場の集約化、4つ目は居住の集約化である。4つ目の居住の集約化は、集落の崩壊を招く可能性があり、進めるべきではないと考えている。ただ岡崎市の場合は希望者にある程度便利な所に住んでもらい、その空いた土地をどうするかというところまで提案されてきている。そこの議論が今後どうなっていくかを含め、新しい展開だと思って興味を持って見ている。
- 文化財や歴史が非常に重要だと思う。昨年から瀧山寺の修復などにも関わっているが、非常に歴史的意義が高いと感じているし、地元の熱意もある。こうしたものを市としてバックアップし、観光資源の目玉としていくことが重要だ。インバウンドにとっても、特に徳川の歴史を理解すると観光の視点も変わってくる。こういったことは子どもたちが将来、自分の郷土に誇りを持つことにも繋がるだろう。
- スタートアップについて、はじめは才能を買われて働き初期投資も若干つくが、規模が小さいと信用度が低く持続が容易ではない。市の委託業務もなるべく市内で発注し、お金を回すなどを考えることが重要である。様々な団体があり、多くのことは対応できるのではないか。

2 議題

「岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」

《議題》

事務局より、「岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について説明。

【各委員の主な意見】

- IターンやUターン、エネルギー関係で未達成が多い印象を受ける。一方で、新エネルギー関連の2020年のKPIを見ると、目標がむしろ上がっているが、何か戦略があるのか。
 - UIJターン就業・企業支援については、国の要件が厳しかったことや申請の受付期間が短かったことがあり、補助制度の活用がなかった。今後は企業とのマッチングイベント等、就業促進事業と合わせて対策を行っていく。

新エネルギー関係について、経済的なメリットも改めて周知を図るとともに、暮らしやすさ、安全・安心、災害対応など、環境以外の分野とも連携し推進していく。また市を中心に地域新電力会社を作っていくため、民間との共同出資で地域電力小売会社を設立し、再生可能エネルギーの普及促進を行っていく。(事務局)
- 防犯カメラのみでなく、防災についても考えて欲しい。防犯カメラを防災にも有効利用していただきたい。災害状況をリアルタイムでわかるようにするなど、すでに世界ではそうした取組がなされている。縦割りを越えて推進できるのが企画課ではないだろうか。多くの省庁でこうしたプランは出ているが、縦割りになってしまう。市は企画課が主導して全国の先駆けになってもらいたい。
- 中山間地域の農業が崩壊しかけているという懸念がある。中山間地域の農業の支援、もしくはオペレーターの支援が何らかの形でできればよいのではないか。
- 例えばエアコン設置について他の市町より一歩先に全小中学校に入ったということが報道されると「岡崎市はやっているんだな」ということ伝わる。教育文化の振興、ICTを活用した授業においても、それを明確にするために、一歩先の取り組みとして数年のうちに1人1台のPC体制ということを考えて欲しい。
 - 国が示しているGIGAスクール構想よりも一歩先に岡崎市版のGIGAスクール構想を発表しており、教育委員会も国の施策を先取りしてやっていこうという気構えがあり、全市的にやっていきたいと考えている。(事務局)

以上